

### 第3章 本地域における地域公共交通に関する問題点・課題

#### 3-3 地域の現状・課題

##### (1) 人口推移

本地域における人口推移は、4町（妹背牛町、秩父別町、北竜町、沼田町）のいずれも人口減少及び高齢化が著しい状況であり、とりわけ、生産年齢人口の減少が大きくなっています。

このような状況が進んでいくと、これまで生産年齢人口により行われていた、家族等による送迎が困難となり、公共交通の位置付けは重要度を増していくことが予想されます。

各地域の住民の移動手段を確保し続けるためには、広域交通・地域間交通や、それらとの接続性を確保した生活圏交通を維持・確保することが必要です。

一方で、人口減少の波は高齢者数にも及んでおり、公共交通の主な利用者である高齢者数は全町で平成27年をピークに減少傾向に転じているため、維持・確保すべき交通モードについても利用者数に見合った検討を行うことが重要となります。

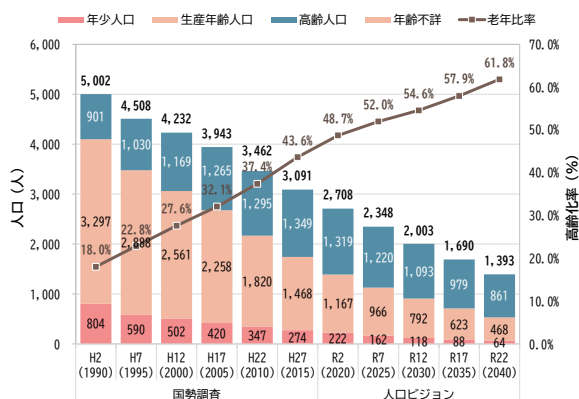


図 0-1 妹背牛町における人口推移

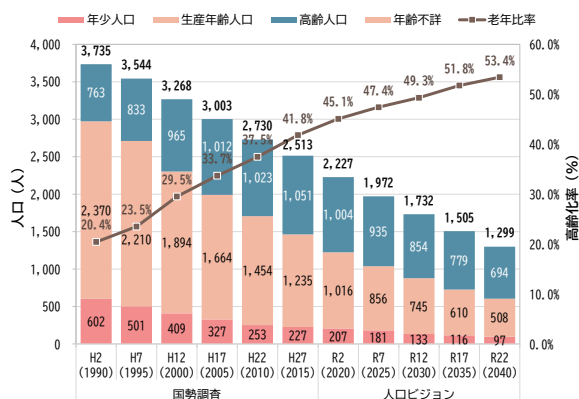


図 0-2 秩父別町における人口推移

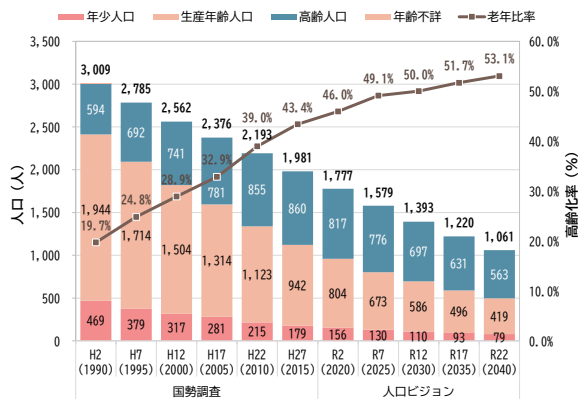


図 0-3 北竜町における人口推移

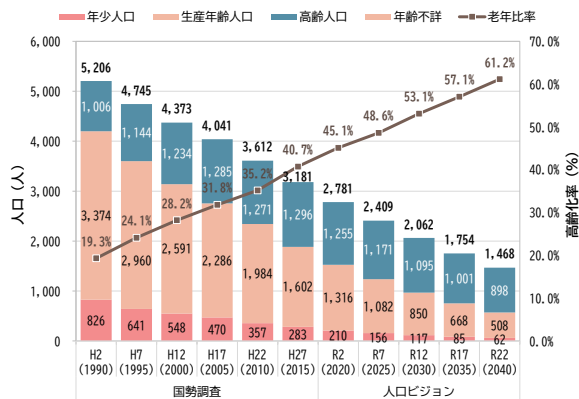


図 0-4 沼田町における人口推移

出典：「国勢調査」、社人研「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」

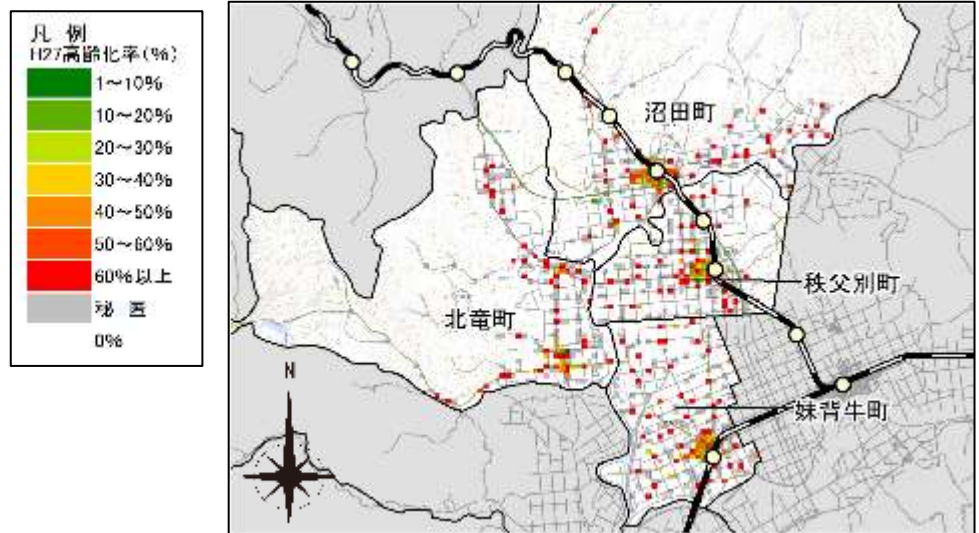
現状・問題点	・加速化する人口減少・高齢化
課題	・利用者数等に応じた広域交通・地域間交通・生活圏交通の確保・維持

(2) 人口・高齢者の分布状況

本地域の人口は、各町の市街地に集積しており、郊外部・農村部は住民が点在する散居形態となっています。また、高齢化は市街地のみならず郊外部・農村部でも進展しています。

このような状況を踏まえると、鉄道の駅や路線バスのバス停まで移動することが困難な住民が増えていくことが予想されます。

これまでは、徒歩や自家用車等で鉄道の駅や路線バスのバス停に行くことを主とした交通体系となってきましたが、生活圏交通と広域交通・地域間交通を円滑に接続するなど、地域内の公共交通を充実させることで、自家用車に依存しなくても地域で生活が続けられる交通体系を確保していくことが必要と考えられます。



出典：H27 国勢調査

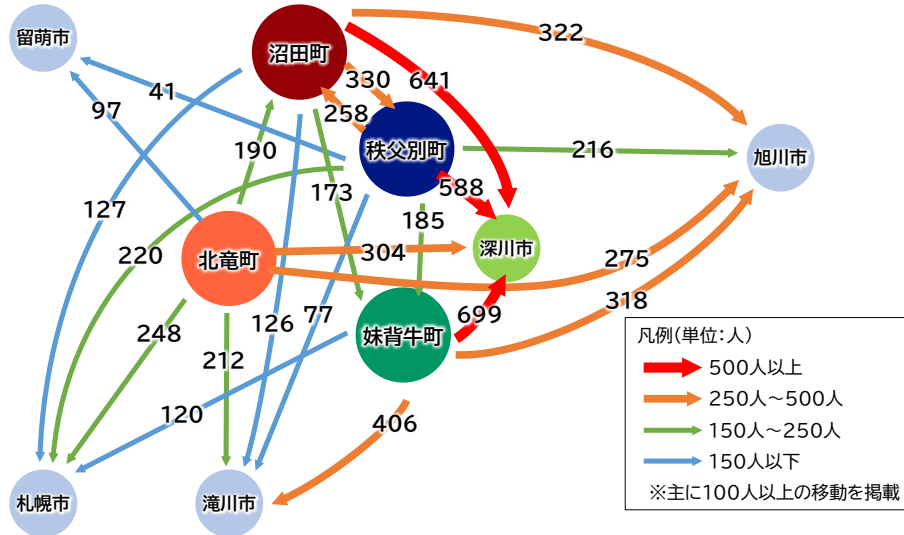
図 0-5 人口（上図）及び高齢者（下図）分布状況

現状・問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地への人口集積・郊外部及び農村部の散居形態</li> <li>・全地域的な高齢化の進展</li> <li>・鉄道駅や路線バスのバス停までの移動を行うことが困難</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自家用車に依存しない交通体系の構築</li> <li>・各交通モード間の接続性向上によるシームレスな交通体系の確保</li> </ul>

### (3) 本地域を中心とした移動状況

#### 1) 全体の移動状況

本地域の広域的な生活圏は、旭川市、滝川市、深川市であるほか、札幌市への移動もみられます。このことから、地域内移動に加え、生活圏である自治体までの円滑な移動手段を維持することが必要です。



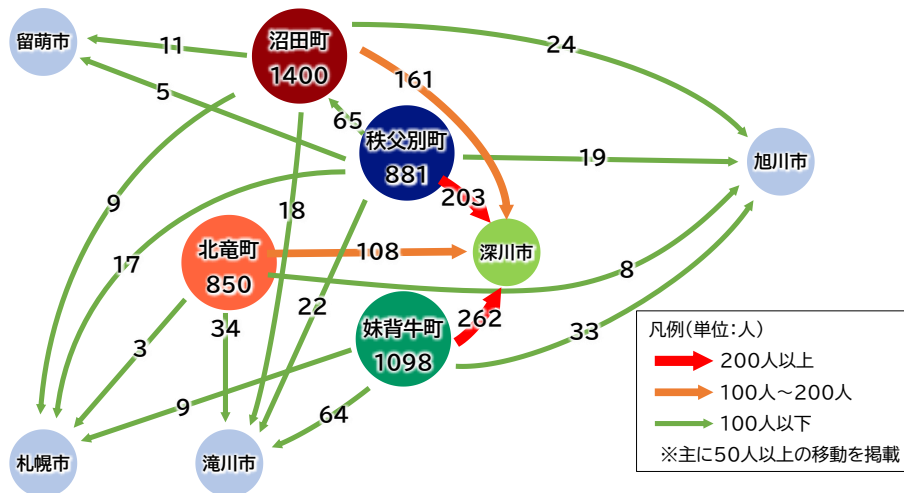
出典：RESAS（2019年5月の4時台、10時台、14時台、22時台の移動量を合計）

図 0-6 本地域を中心とした移動状況図

#### 2) 通勤・通学における移動状況

本地域の住民は、居住している町内での通勤・通学が多い一方で、滝川市や深川市への移動もみられます。

このことから、本地域から通勤・通学ができるよう、生活圏である自治体までの円滑な移動手段を維持することが必要です。



出典：H27 国勢調査

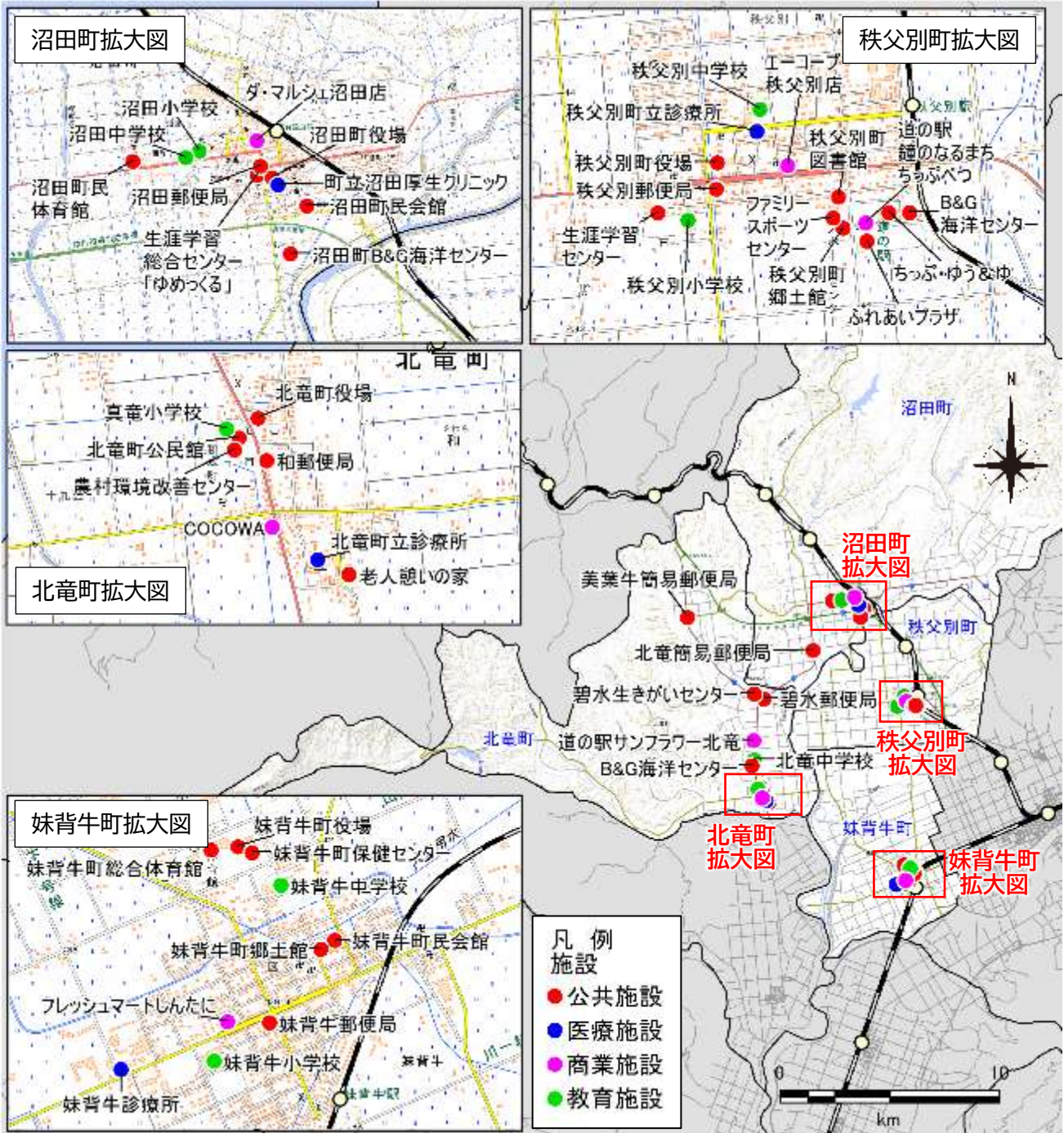
図 0-7 通勤・通学における本地域を中心とした移動状況図

現状・問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本地域の広域的な生活圏は、旭川市、滝川市、深川市</li> <li>・通学圏は滝川市及び深川市</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用実態に応じた運行規模の適正化による持続可能な地域間交通の確保</li> <li>・【再掲】利用者数等に応じた広域交通・地域間交通・生活圏交通の確保・維持</li> </ul>



(4) 生活関連施設の分布状況

本地域における生活関連施設は、各町の市街地に集積しており、地域内で安心して住み続けるためには、郊外部・農村部等から各市街地までアクセスでき、かつ、市街地内を周遊できる交通モードの維持・確保が必要です。



出典：北空知4町（令和3年4月1日現在）

図 0-8 施設分布状況

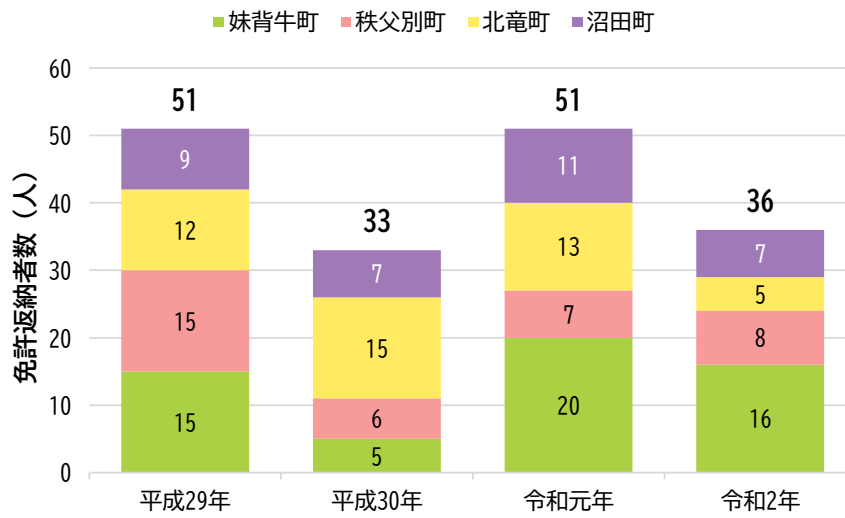
現状・問題点	・生活関連施設の各市街地への集積
課題	・生活圏交通の充足による生活の足の確保

(5) 自動車運転免許証の自主返納状況

本地域では、平成 29 年以降、年間平均で約 43 件の自動車運転免許証の返納が行われています。一般的に自動車運転免許証の自主返納を行う年齢は 75 歳以上が多いため、本地域内でも 75 歳で自主返納を行うと想定し、国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計及び北海道の免許返納率を参考に推計を行うと、令和 15 年には 127 人が自らの運転で移動することができなくなると考えられ、この状況は年々増加していくことが予想されます。

このような状況下でも安心してお出かけができる環境を整備するため、自家用車に依存しなくても地域で生活が続けられる交通体系を確保すること、また、公共交通の利便性を向上させることが重要です。

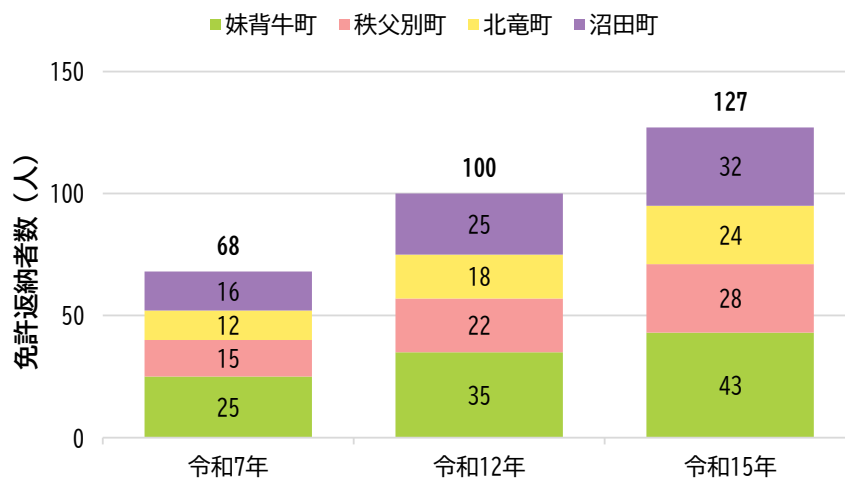
1) 本地域における免許返納状況



出典：北海道警察（各年 1～12 月の返納分を集計）

図 0-9 本地域の免許返納状況

2) 令和 7 年以降の免許返納者数の推移



※北海道警察及び国立社会保障・人口問題研究所の公表データを用いて独自推計

図 0-10 本地域の将来の免許返納者数（75 歳以上として想定）

現状・問題点	・自動車運転免許証の自主返納者の増加
課題	・【再掲】自家用車に依存しない交通体系の構築

## (6) 観光入込客数の状況

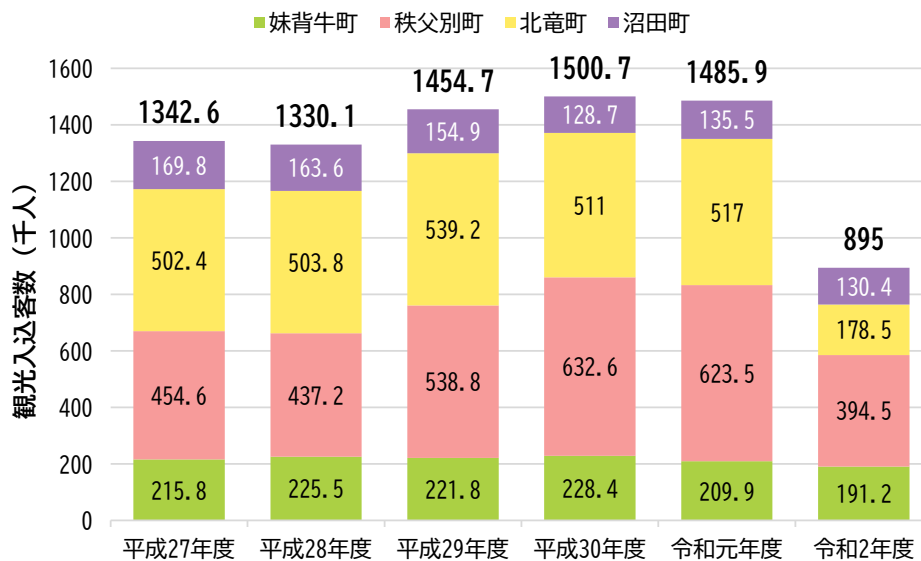
本地域の観光入込客数は、平成27年度から令和元年度までの5か年平均で、年間1,422.8千人でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度には894.6千人と、5か年平均と比較し、528.2千人の減少となっています。

本地域における鉄道及び路線バス等の公共交通の維持に向けては、住民の生活利用に加え、観光利用も重要な要因の一つであるため、アフターコロナを見据え、観光客の受入基盤として着実に整備をしていくことが必要です。

また、本地域の観光資源の立地状況は、市街地のみならず郊外部・農村部にも立地しており、観光資源までは自家用車もしくはレンタカーなどによる移動が多くなる傾向にあることから、冬期の運転に慣れていない観光客においては、自動車事故のリスクが高まることが予想されます。

このことから、地域住民の安全性の確保を第一に、観光客の安心な移動の観点も含めて、公共交通による円滑な観光行動ができる環境整備を進めることが重要です。

### 1) 観光入込客数の推移



出典：北海道観光入込客数調査報告書

図 0-11 観光入込客数の推移

現状・問題点	・住民及び観光客の安心・安全性の確保
課題	・アフターコロナを見据えた公共交通による生活目的及び観光目的での円滑な移動の支援



2) 本地域の観光施設・資源の位置

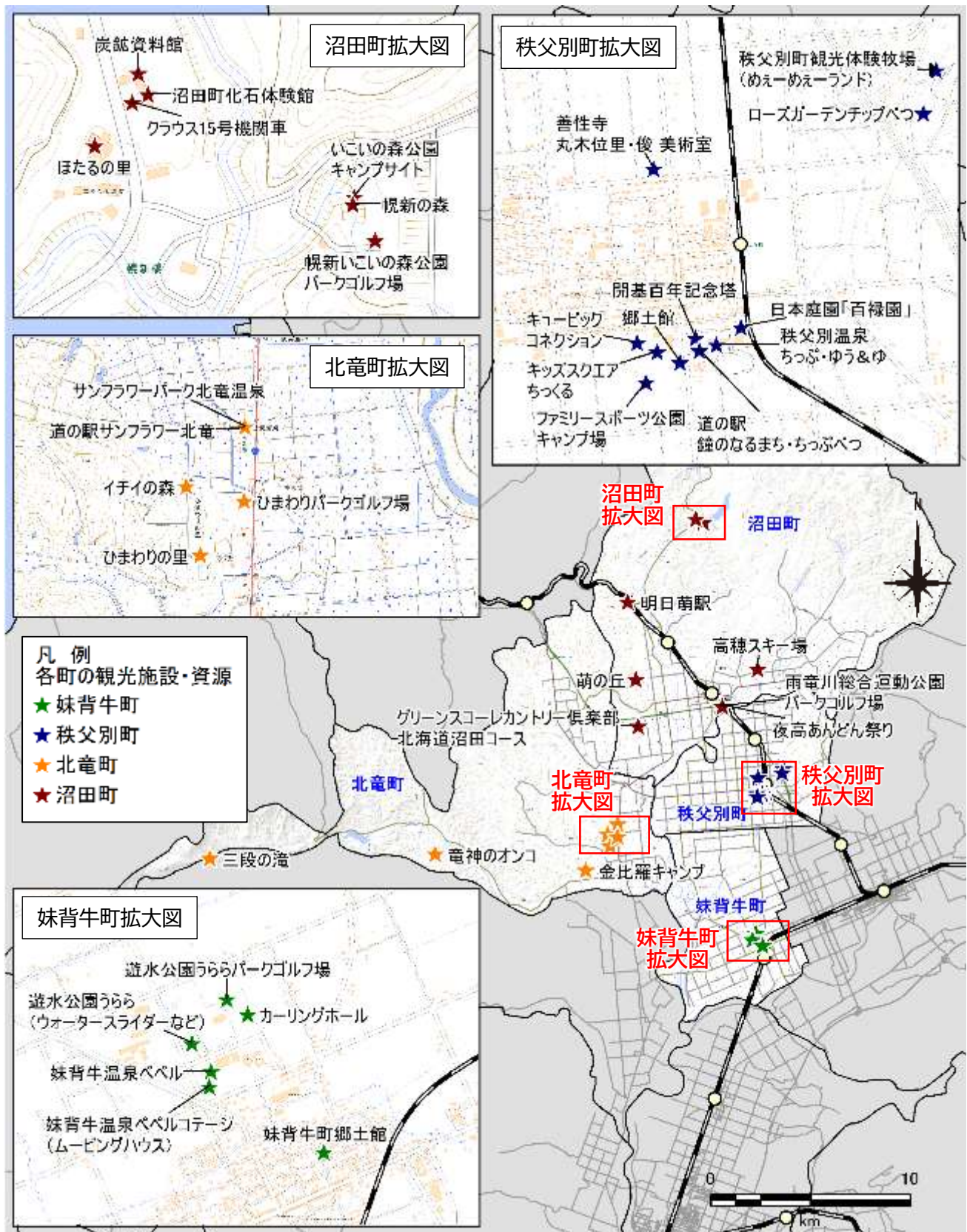


図 0-12 各町の観光施設・資源

### 3-2 公共交通の現状

#### (1) 本地域の公共交通の概況・課題

##### 1) 広域交通-鉄道

本地域では、広域交通-鉄道として、北海道旅客鉄道株式会社が運行する「JR留萌本線」及び「JR函館本線」が運行しており、計6駅があります。これらは、中核都市（札幌市・旭川市）及び地域中心都市（留萌市・滝川市・深川市）までのアクセス交通として、通勤、通学、買い物、通院、観光等の多様な目的で利用されています（JR留萌本線は、地域間移動及び生活圏移動でも利用されていることが予想されるため、地域間交通・生活圏交通としての役割もあります）。

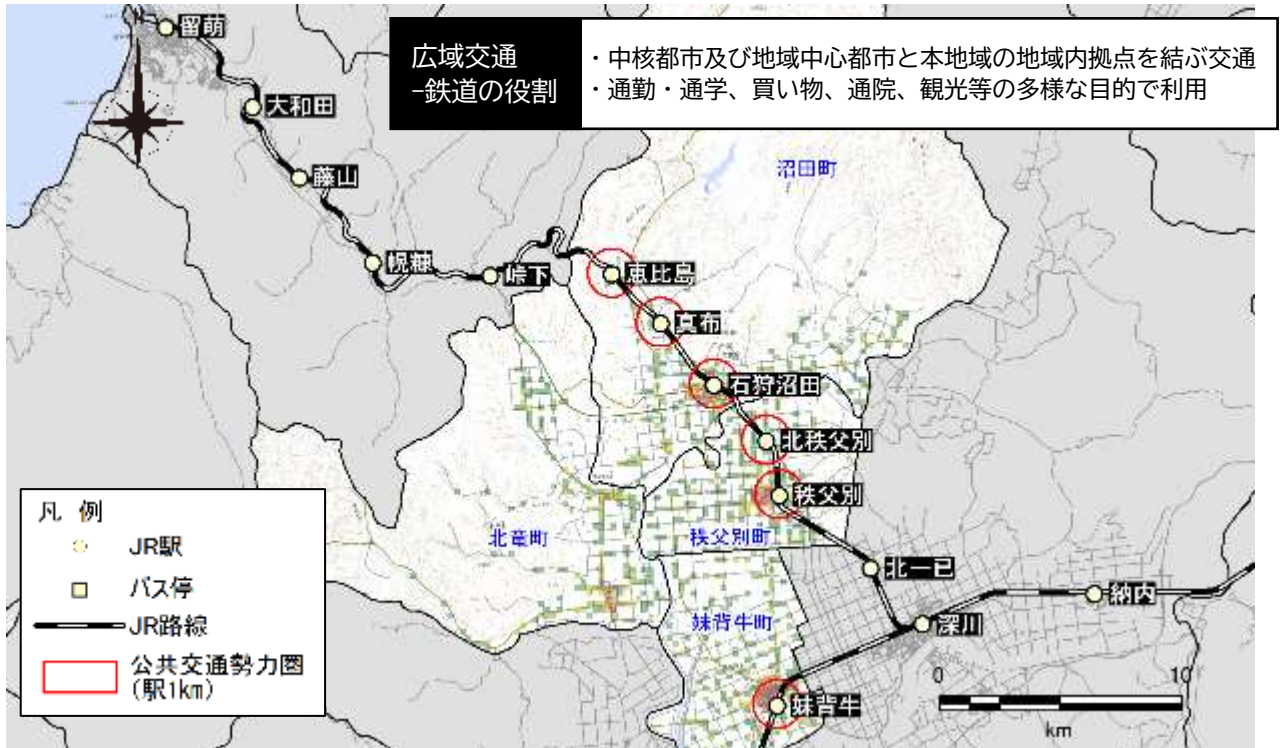
JR留萌本線については、平成28年11月18日に北海道旅客鉄道株式会社が「当社単独では維持することが困難な線区」と公表し、鉄道からバス路線等の持続可能な交通体系への転換を検討することとしています。

これを受け、沿線市町で構成する「JR留萌本線沿線自治体会議」では、留萌から沼田間の廃線容認（バス転換）や沼田から深川間の部分存続に向けた協議が継続されています。

表 0-1 本地域内を運行する広域交通-鉄道の運行状況

運行主体	路線名	区間		便数		所要時間
		自	至	上	下	
JR北海道	留萌本線（留萌～深川） 普通列車	自	留萌駅	上	7便	55分
		至	深川駅	下	7便	58分
	函館本線（旭川～手稲） 普通列車	自	旭川駅	上	1便	170分
		至	手稲駅	下	0便	0分
	函館本線（旭川～札幌） 普通列車	自	旭川駅	上	0便	0分
		至	札幌駅	下	1便	173分
	函館本線（深川～岩見沢） 普通列車	自	深川駅	上	1便	68分
		至	岩見沢駅	下	0便	0分
	函館本線（旭川～岩見沢） 普通列車	自	旭川駅	上	4便	97分
		至	岩見沢駅	下	5便	89分
	函館本線（旭川～滝川） 普通列車	自	旭川駅	上	3便	52分
		至	滝川駅	下	2便	56分





出典：H27 国勢調査、各運行事業者

図 0-13 広域交通-鉄道の運行状況

<b>現状・問題点</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中核都市及び地域中心都市と本地域の地域内拠点を結ぶ交通</li> <li>・通勤・通学、買い物、通院、観光等の多様な目的で利用</li> <li>・JR留萌本線は、留萌駅～深川駅間を運行しており、JR北海道が「当社単独では維持することが困難な線区」と公表</li> <li>・本地域内を運行するJR函館本線の普通列車は、旭川・深川方面や滝川・札幌方面を運行</li> </ul>
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR留萌本線沿線自治体会議での協議結果を踏まえた、円滑な交通モードの検討</li> <li>・住民等の円滑な広域移動を支えるJR函館本線の維持</li> </ul>

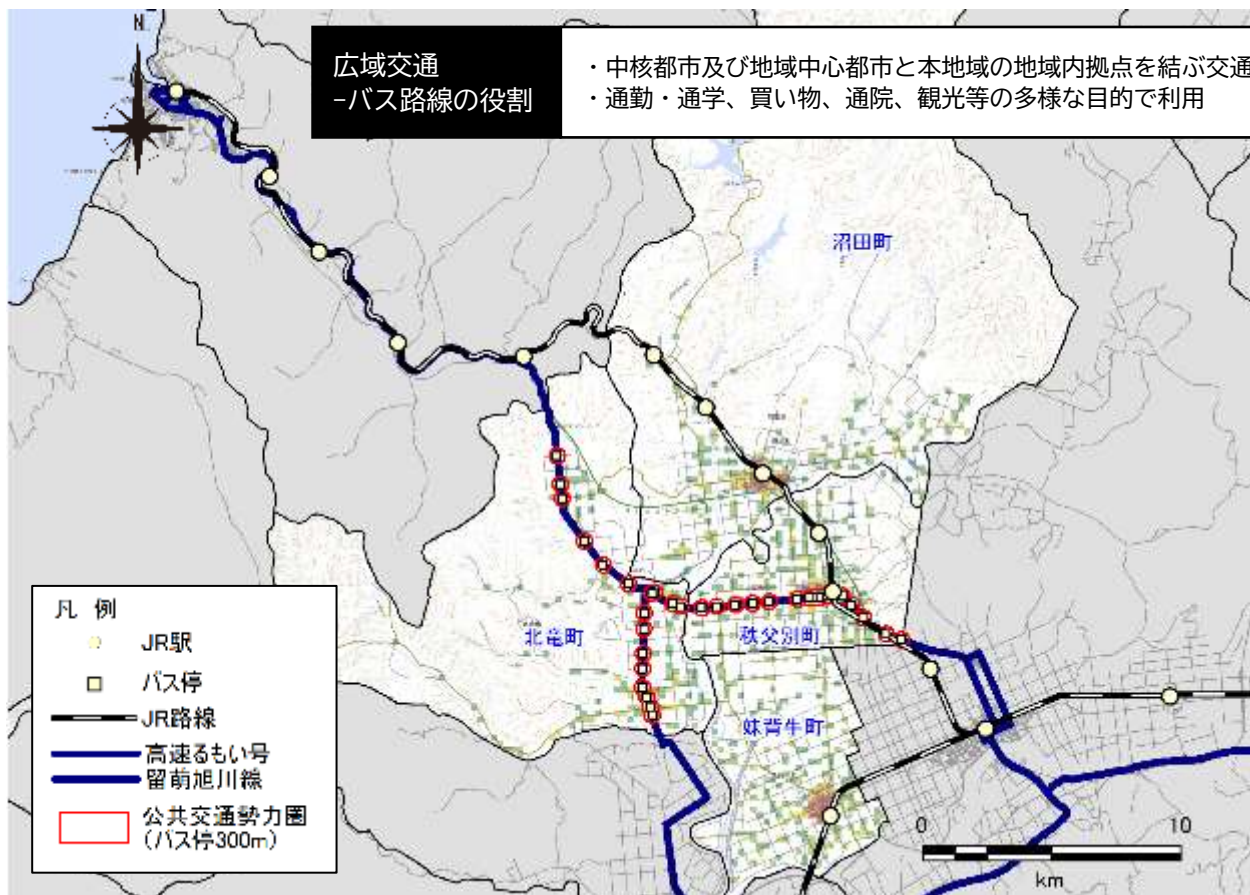
## 2) 広域交通-バス路線

本地域では、広域交通-バス路線として、北海道中央バス株式会社が運行する「高速るもい号」及び沿岸バス株式会社・道北バス株式会社が共同で運行する「留萌旭川線」があり、中核都市（札幌市・旭川市）及び地域中心都市（留萌市・滝川市・深川市）までのアクセス交通として、通勤、通学、買い物、通院、観光等の多様な目的で利用されています。（留萌旭川線は、地域間移動及び生活圏移動でも利用されていることが予想されるため、地域間交通・生活圏交通としての役割もあります）。

両路線とも、昨今の人口減少や自家用車への依存等の影響により、利用者数が減少傾向となっています。また、留萌旭川線については、国・道の補助制度を活用しながら維持している路線であり、今後も地域に必要な移動手段として維持することが求められています。

表 0-2 本地域内を運行する広域交通-バス路線の運行状況

運行主体	路線名	区間		便数		所要時間
		自	至	上	下	
北海道中央バス(株)	高速るもい号（滝川経由）	自	札幌駅前ターミナル	上	3便	188分
		至	留萌ターミナル	下	3便	192分
	高速るもい号（深川経由）	自	札幌駅前ターミナル	上	4便	178分
		至	留萌ターミナル	下	3便	178分
	高速るもい号（直行便）	自	留萌ターミナル	上	1便	158分
		至	札幌駅前ターミナル	下	0便	0分
沿岸バス(株) 道北バス(株)	留萌旭川線	自	留萌十字街	上	5便	130分
		至	旭川駅前	下	6便	130分
沿岸バス(株)	快速留萌旭川線	自	留萌十字街	上	3便	120分
		至	旭川駅前	下	2便	120分



出典：H27 国勢調査、各運行事業者

図 0-14 広域交通-バス路線の運行状況

<p><b>現状・問題点</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中核都市及び地域中心都市と本地域の地域内拠点を結ぶ交通</li> <li>・通勤・通学、買い物、通院、観光等の多様な目的で利用</li> <li>・高速るもい号は、留萌市～札幌市間を運行</li> <li>・留萌旭川線は、留萌市～旭川市間を運行（一部区間はJR留萌本線と並行）しており、国・道の補助制度を活用しながら維持</li> </ul>
<p><b>課題</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民等の円滑な広域移動を支える高速るもい号の維持</li> <li>・JR留萌本線のあり方と連動した留萌旭川線における運行水準の見直しを検討</li> </ul>



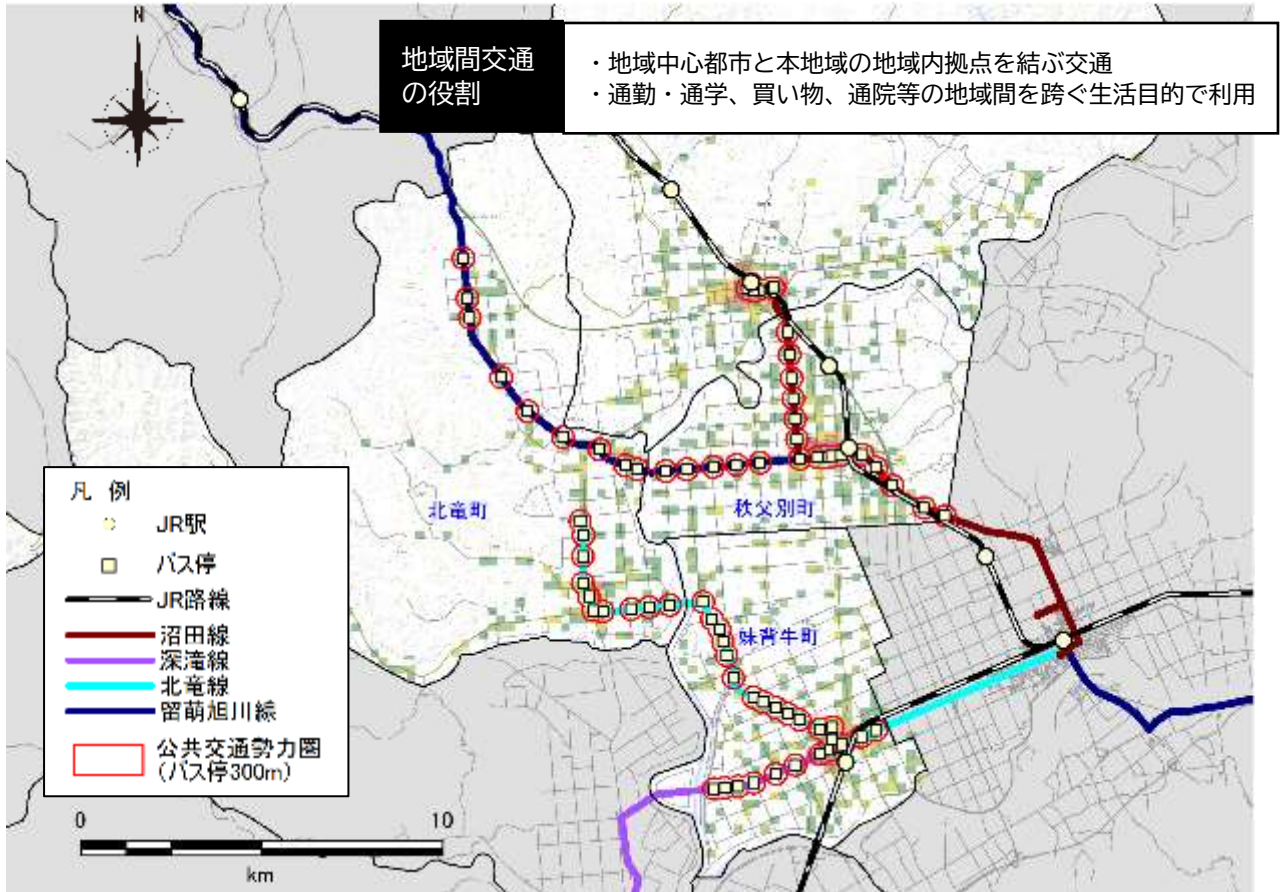
### 3) 地域間交通

本地域には、地域間交通として、空知中央バス株式会社が運行する「沼田線」、「北竜線」及び「深滝線（雨竜経由）」のほか、沿岸バス株式会社・道北バス株式会社が共同で運行する「留萌旭川線」があり、中核都市（旭川市）や地域中心都市（留萌市・滝川市・深川市）までのアクセス交通として、通勤、通学、買い物、通院等の生活目的で利用されています（なお、地域間交通は、生活圏移動でも利用されていることが予想されるため、地域間交通に加え、生活圏交通としての役割もあります）。

いずれの路線も国・道の補助制度を活用しながら維持している路線であり、今後も地域に必要な移動手段として維持することが求められています。

表 0-3 本地域内を運行する地域間交通の運行状況

運行主体	路線名	区間		便数		所要時間
空知中央バス(株)	深滝線（雨竜経由）	自	滝川駅前	上	11 便	67 分
		至	深川市立病院前	下	13 便	65 分
	北竜線	自	深川市立病院前	上	5 便	35 分
		至	北竜温泉	下	5 便	35 分
	沼田線	自	深川市立病院前	上	5 便	30 分
		至	沼田駅前	下	5 便	30 分
沿岸バス(株) 道北バス(株)	留萌旭川線	自	留萌十字街	上	5 便	130 分
		至	旭川駅前	下	6 便	130 分
沿岸バス(株)	快速留萌旭川線	自	留萌十字街	上	3 便	120 分
		至	旭川駅前	下	2 便	120 分



出典：H27 国勢調査、各運行事業者

図 0-15 地域間交通の運行状況

<b>現状・問題点</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域中心都市と本地域の地域内拠点を結ぶ交通</li> <li>・通勤・通学、買い物、通院等の地域間を跨ぐ生活目的で利用</li> <li>・いずれの路線も国・道の補助制度を活用しながら維持している路線</li> <li>・路線によっては、広域交通と運行区間が重複</li> </ul>
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【再掲】各交通モード間の接続性向上によるシームレスな交通体系の確保</li> <li>・【再掲】利用実態に応じた運行規模の適正化による持続可能な地域間交通の確保</li> </ul>

4) 生活圏交通

本地域には、生活圏交通として、前段で整理した広域交通・地域間交通のほかに、スクールバスの住民混乗や沼田町が運行している「東予線」・「幌新線」、北竜町が委託運行している乗合タクシーなど、各町が独自で運行している公共交通があり、各町の地区と地域内拠点を結ぶ交通として、地域内の買い物や通院などの生活目的で利用されています。

また、北海道中央バス株式会社が運行してきた「滝川北竜線」の代替交通として、令和4年4月から北竜町が「北竜町運営有償運送」を運行しています。

地域の生活の足の確保として、こうした地域独自の生活圏交通に係る取組をさらに推進するとともに、広域交通・地域間交通との接続性の確保も併せて検討・実施していくことが必要です。

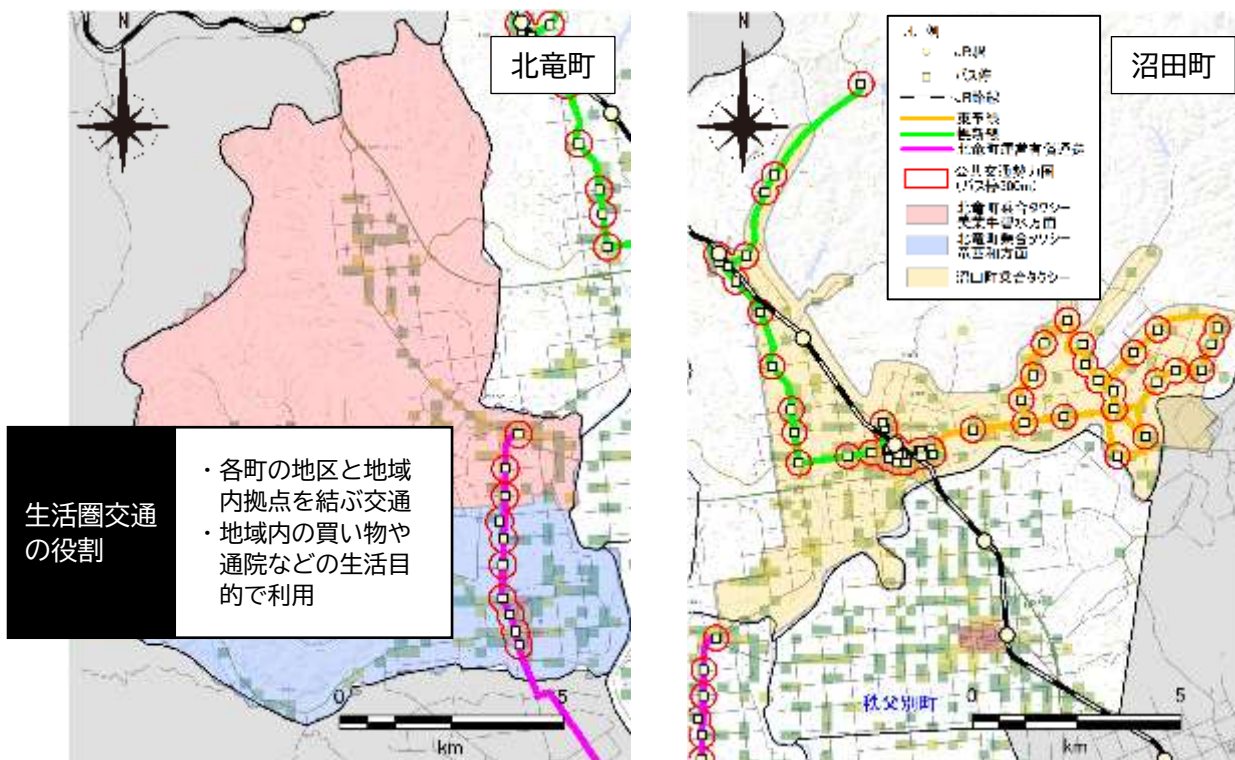
表 0-4 本地域内を運行する生活圏交通の運行状況

運行・事業主体	路線・事業名等	区間		便数		所要時間
		自	至	登	下	
妹背牛町 施設事業者	医療法人 英晃会 妹背牛 診療所 受診者用送迎バス	-		-		-
	デイサービスセンター 利用者用送迎バス	-		-		-
秩父別町	スクールバス 東方面 ※住民混乗可	自	百年記念塔	登	1便	27分
		至	百年記念塔	下	4便	31分
	スクールバス 西方面 ※住民混乗可	自	百年記念塔	登	1便	27分
		至	百年記念塔	下	4便	39分
北竜町	スクールバス 碧水線 ※住民混乗可 ※最終便のみ一部区間予約運行	自	住宅前	登	1便	36分
		至	ツワワパーク前	下	2便	36分
	スクールバス 竜西線 ※住民混乗可 ※最終便のみ一部区間予約運行	自	竜西	登	1便	28分
		至	ツワワパーク前	下	2便	28分
	スクールバス 美葉牛線 ※住民混乗可 ※最終便のみ一部区間予約運行	自	公民館前	登	2便	58分
		至	公民館前	下	2便	58分
	北竜町運営有償運送	自	碧水市街	上	1便	16分
		至	追分市街	下	2便	19分
	乗合タクシー 美葉牛碧水方面	方面	美葉牛碧水方面	上	6便	-
				下	4便	-
乗合タクシー 竜西和方面	方面	竜西和方面	上	6便	-	
			下	4便	-	
沼田町	沼田町営バス 東予線	自	町分岐点	上	1便	39分
		至	厚生クリニック	下	0便	0分
	沼田町営バス 東予線	自	厚生クリニック	上	1便	53分
		至	厚生クリニック	下	1便	53分
	沼田町営バス 幌新線	自	旧厚生クリニック	上	2便	25分
		至	幌新温泉	下	2便	23分
	沼田町営バス 幌新線	自	厚生クリニック	上	3便	34分
		至	幌新温泉	下	3便	34分
乗合タクシー	自宅-指定停留所間 または、指定停留所間		9便		-	



表 0-5 本地域内に事業所を持つタクシー事業者

事業者名	事業所位置	運転手数	車両台数
三共ハイヤー	妹背牛町	7名	8台
新星ハイヤー	秩父別町（支所）	2名（支所）	2台（支所）
和ハイヤー	北竜町	2名	2台
明日萌観光バス	沼田町	2名	2台



生活圏交通  
の役割

- ・各町の地区と地域内拠点を結ぶ交通
- ・地域内の買い物や通院などの生活目的で利用

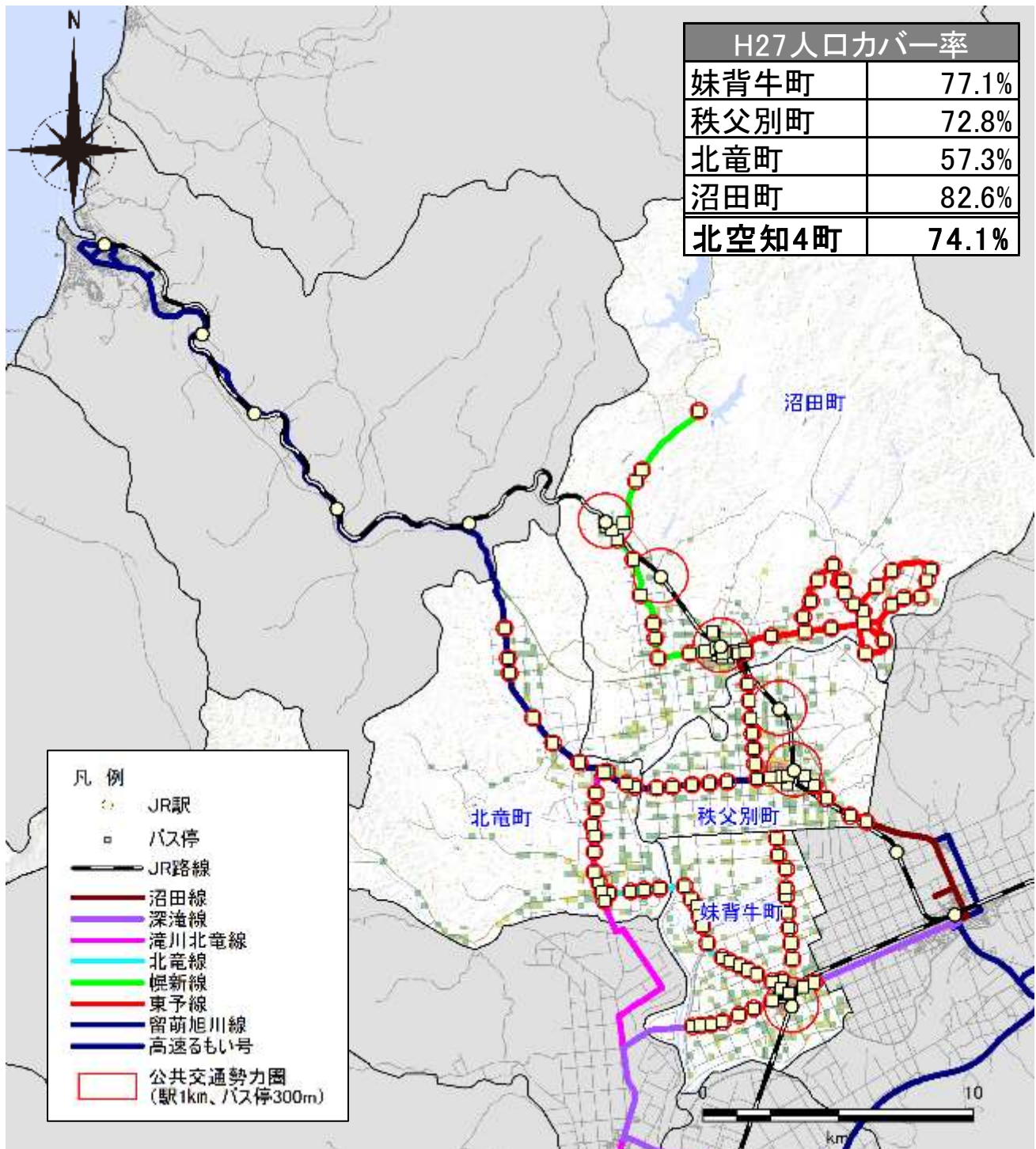
出典：H27 国勢調査、各運行事業者

図 0-16 生活圏交通の運行状況

現状・問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各町の地区と地域内拠点を結ぶ交通・地域内の買い物や通院などの生活目的で利用</li> <li>・スクールバスの住民混乗など、独自で公共交通を運行</li> <li>・「滝川北竜線」の代替交通として、令和4年4月から北竜町が「北竜町運営有償運送」を運行</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【再掲】各交通モード間の接続性向上によるシームレスな交通体系の確保</li> <li>・【再掲】生活圏交通の充足による生活の足の確保</li> </ul>

(2) 公共交通による人口カバー率（公共交通勢力圏）

本地域を運行する広域交通、地域間交通及び生活圏交通を利用できる住民は、4町全人口の74.1%であり、25.9%は利用することが困難な状況であるため、生活圏交通の充足が重要課題となります。



出典：H27 国勢調査、各運行事業者

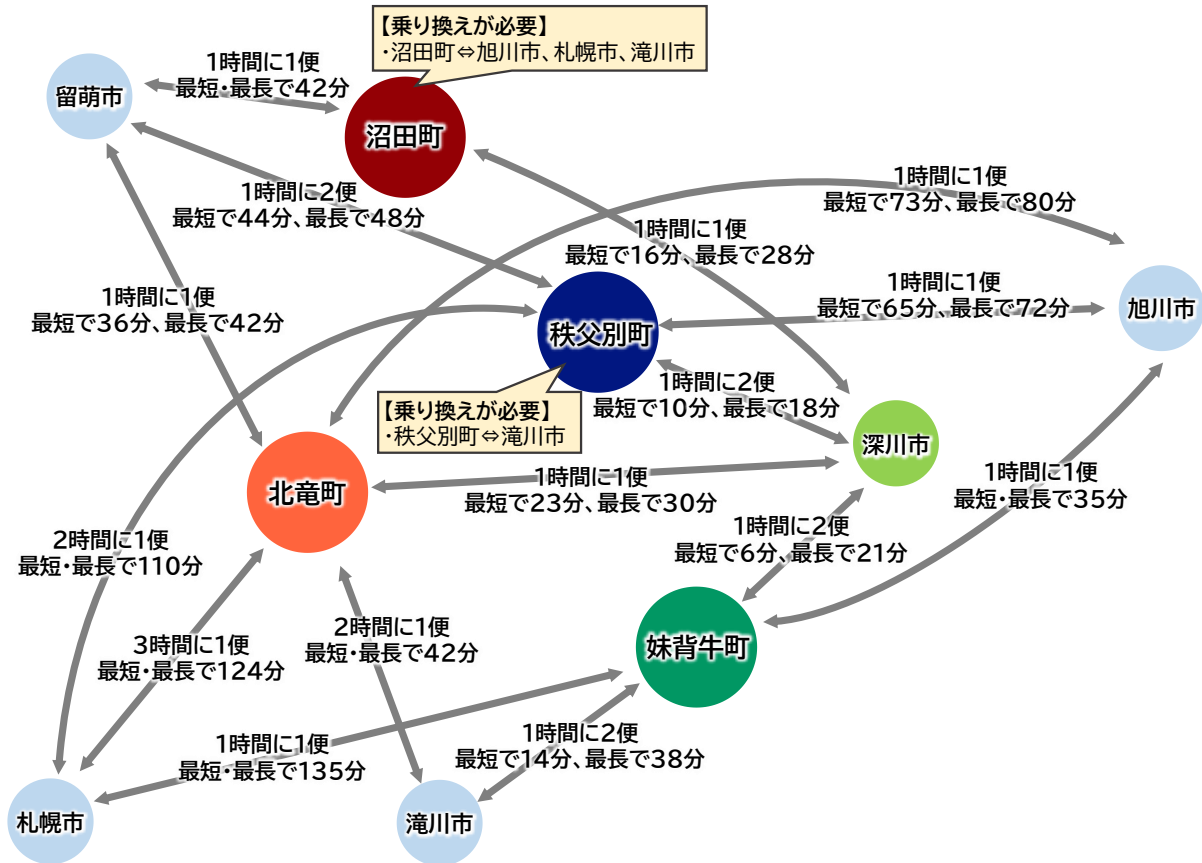
図 0-17 公共交通の勢力圏

<b>現状・問題点</b>	・本地域に居住する住民の25.9%が交通空白地域に居住
<b>課題</b>	・生活圏交通の充足による交通空白地域の減少

### (3) 中核都市及び地方中心都市へのアクセス状況

本地域における公共交通での中核都市（札幌市、旭川市）や地域中心都市（留萌市・滝川市・深川市）へのアクセス状況は、各町で1時間に1～2便のサービス水準となっている一方で、目的の都市によっては直行便が運行しておらず、乗り換えが必要となっている地域があります。

このため、地域間拠点及び地域内拠点における円滑な乗り換えができる交通体系の構築が重要です。



出典：各運行事業者

図 0-18 中核都市及び地方中心都市へのアクセス状況

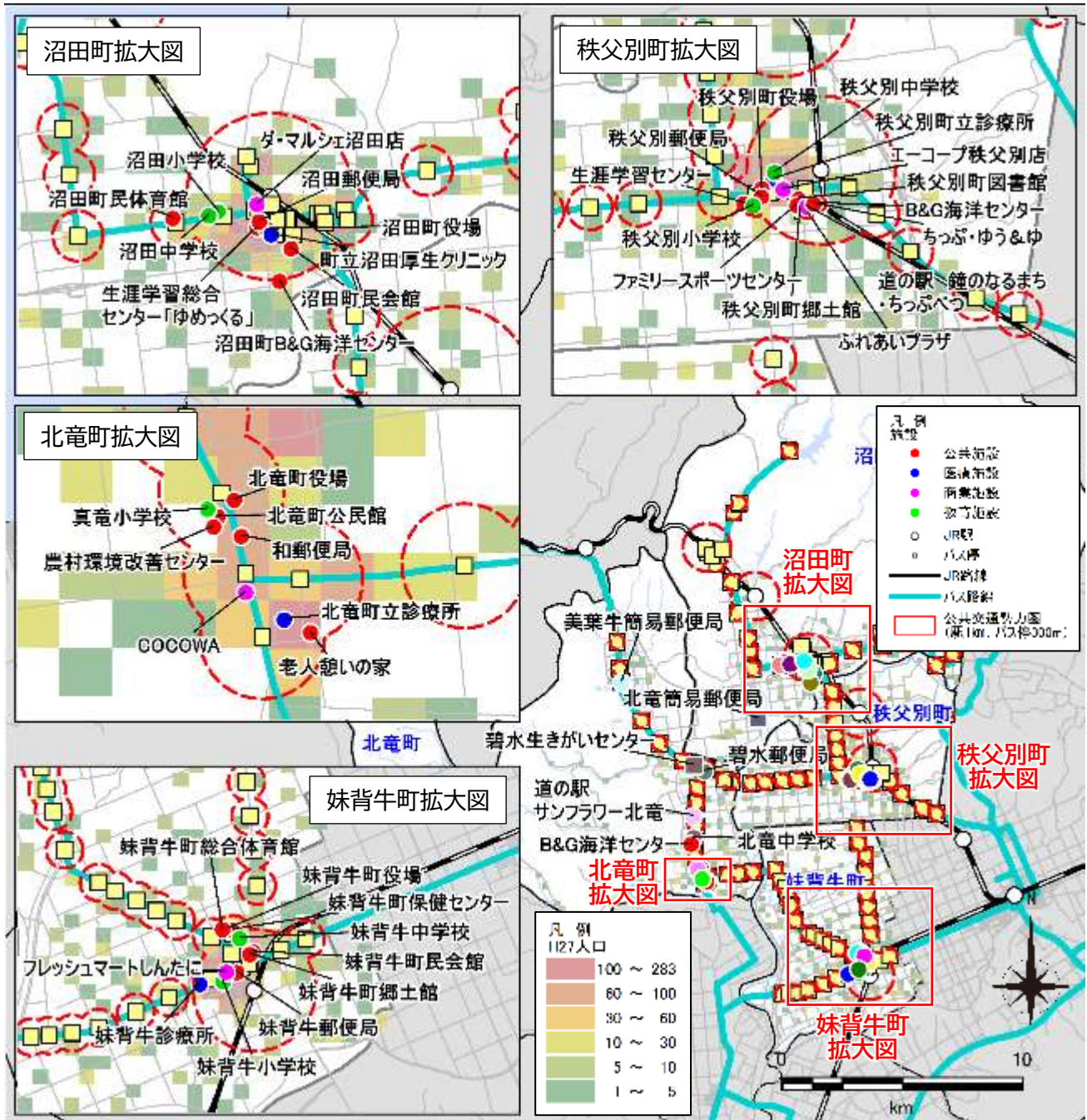
<b>現状・問題点</b>	・公共交通を乗り継ぐ際、待ち時間が長く接続性が低いなど、中核都市や地域中心都市までの所要時間が長い
<b>課題</b>	・【再掲】利用者数等に応じた広域交通・地域間交通・生活圏交通の確保・維持 ・【再掲】各交通モード間の接続性向上によるシームレスな交通体系の確保



(4) 生活関連施設までのアクセス状況の整理

本地域にある多くの生活関連施設が、広域交通、地域間交通及び生活圏交通の駅及びバス停から300m圏内に立地しているため、公共交通を利用してアクセスすることが可能です。

一方で、各町には、郊外部・農村部を中心に交通空白地域が広がっているため、これらの交通空白地域から生活関連施設までのアクセス交通として生活圏交通を確保することが必要です。



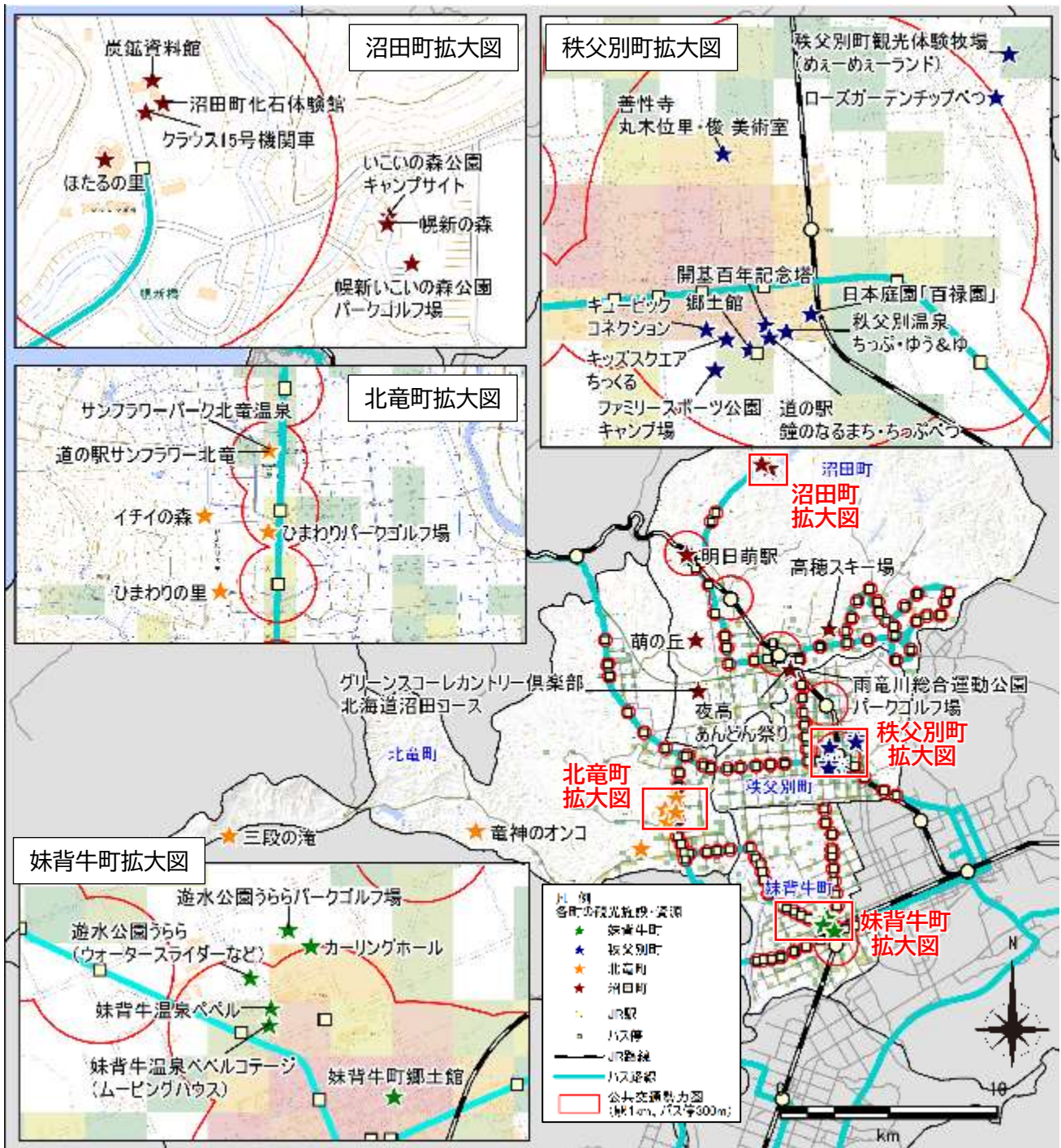
出典：H27 国勢調査、各運行事業者、北空知4町（令和3年4月1日現在）  
図 0-19 生活関連施設までのアクセス状況

現状・問題点	・交通勢力圏内に概ね生活関連施設が立地
課題	・【再掲】生活圏交通の充足による交通空白地域の減少及び生活の足の確保



(5) 観光施設までのアクセス状況の整理

本地域の観光資源の約6割が、広域交通、地域間交通及び生活圏交通の駅及びバス停の300m圏内に立地しており、公共交通を利用する観光客を増加させるためにも、各町の観光資源と地域内拠点を繋ぐアクセス交通の確保が必要です。



出典：H27 国勢調査、各運行事業者、北空知4町（令和4年1月現在）  
図 0-20 観光施設までのアクセス状況

<b>現状・問題点</b>	・公共交通ではアクセスできない観光資源が約4割
<b>課題</b>	・【再掲】アフターコロナを見据えた公共交通による観光目的の円滑な移動の支援

(6) 各町で実施している移動支援

各町での移動支援に係る取組は、スクールバスの運行や高齢者移動支援などの事業を実施している状況です。

各町で生活し続けるにあたって、必要不可欠な移動の支援を行っている状況ですが、1千万円近くの費用を要している町もあり、今後も住民の地域内を移動する際の生活圏交通の一部として、継続していくためにも、各町で住民ニーズに応じた効率的な移動支援の検討が必要です。

表 0-6 各町で実施している移動支援の概要（妹背牛町、秩父別町）

町名	事業名	事業概要	R2 実績 (千円)
妹背牛町	一般バス路線の維持に係る補助	<ul style="list-style-type: none"> <li>・深滝線（地域間幹線系統、欠損補填分）：309千円</li> <li>・北竜線（北海道広域生活交通路線、欠損補填分）：2,300千円</li> </ul>	2,609
	スクールバス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民混乗不可</li> <li>・遠方から小中学校に通学する児童生徒向けとしての利用</li> </ul>	6,735
	高齢者等交通費助成事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者等が生活に必要な移動によって生じる交通費の一部を助成し、公共交通の利用促進を図る。</li> <li>・本人や配偶者が自家用車を所有していない世帯のうち次のいずれかに該当する人が対象。 ※満65歳以上の者の世帯、※障害者等手帳保有世帯、※町長が認める世帯</li> <li>・令和2年度から実施</li> <li>・1万円(100円×100枚)助成券</li> <li>・空知中央バス路線、三共ハイヤー町内利用、JR函館本線（領収書による）</li> </ul>	712
秩父別町	一般バス路線の維持に係る補助	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沼田線（地域間幹線系統、欠損補填分）</li> </ul>	1,447
	スクールバス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民混乗可(利用実績なし)</li> <li>・登校2便、下校4便(月曜は3便)</li> <li>・遠方から小中学校に通学する児童生徒向けとしての利用</li> </ul>	4,351
	タクシー助成事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・60歳以上の町民を対象</li> <li>・運賃千円未満の場合 利用者負担100円、千円以上～2千円未満 利用者負担200円、2千円以上～3千円未満 利用者負担300円としている。</li> <li>・助成券(千円ごとに1枚使用可能)を発行。助成交付枚数は年齢により30枚～最大90枚の制限有</li> </ul>	8,163
	バス高齢者利用助成事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・65歳以上の町民を対象</li> <li>・路線バスを利用する場合、秩父別-深川市間の運賃を一律200円とし利用券を販売。利用者は利用区間の登録が必要。</li> </ul>	703
	秩父別町高速バス利用者タクシー助成事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町民を対象</li> <li>・自宅から高速るもい号秩父別IC入口バス停留所までのタクシー利用料金額を助成。バスが到着するまでの待機時間(10分以内)も対象。</li> </ul>	56

表 0-7 各町で実施している移動支援の概要（北竜町、沼田町）

町名	事業名	事業概要	R2 実績 (千円)
北竜町	一般バス路線の維持に係る補助	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北竜線（北海道広域生活交通路線、欠損補填分）：1,738 千円</li> <li>・滝川北竜線：7,079 千円</li> <li>※滝川北竜線は、令和4年3月末に廃止</li> </ul>	8,817
	スクールバス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民混乗可（碧水線、竜西線、美葉牛線）</li> <li>・遠方から小中学校に通学する児童生徒向けとしての利用</li> </ul>	12,160
	乗合タクシー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和ハイヤー</li> <li>・運賃 200 円</li> <li>※滝川北竜線の廃止に伴う増便を検討</li> </ul>	4,531
沼田町	一般バス路線の維持に係る補助	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沼田線（地域間幹線系統、欠損補填分）</li> </ul>	798
	町営バス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幌新線（土日祝日及び学校休校日の上下線 1 便目は運休、1 月 1 日は全便運休、1 月 2 日・3 日の 1 便目と 5 便目は全便運休）</li> <li>・東予線（学校休校日、土日祝日は全便運休）</li> </ul>	3,366
	スクールバス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東予線（町営バスの便をスクール併用）</li> <li>・幌新線（町営バスの便をスクール併用）</li> <li>・北竜中央線（住民混乗不可）</li> </ul>	
	乗合タクシー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町営バスが利用しにくい場合などの移動手段</li> <li>・明日萌観光バス</li> <li>・8:00～17:00 まで 9 便（年末年始除く）</li> <li>・町営登録者 100 円、町外登録者 200 円</li> <li>・対象： <ul style="list-style-type: none"> <li>○市街地に住む 60 歳以上の沼田町に住所を有する住民</li> <li>○市街地に住む 60 歳未満の方で所有自動車等交通手段のない方</li> <li>○碧水市街、多度志市外方面からの予約バス利用者</li> </ul> </li> <li>※郊外の方は年齢制限なしで登録不要</li> </ul>	10,472

現状・問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各町で各種移動支援に係る取組を実施</li> <li>・移動支援に係る取組における費用の増加</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【再掲】利用者数等に応じた生活圏交通の確保・維持</li> <li>・【再掲】生活圏交通の充足による生活の足の確保</li> </ul>